

第73回 社会を明るくする運動

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

7/1 土 → 7/31 月



犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

第73回“社会を明るくする運動”金沢市推進委員会委員長

金沢市長 村山 卓

「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行の防止とともに、罪を犯した人たちの更生について理解を深めることにより、安全・安心な地域社会を築くため、昭和26年(1951年)から始まった国民運動で、本年で73回目を迎えます。

長年にわたり、この運動の中心となって支えてこられた保護司会の方々をはじめ、更生保護関係者の皆様におかれましては、日頃から、犯罪や非行のない明るい地域社会づくりに、多大なご尽力をいただきおりましたことに、改めて深く敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

様々な理由で生きづらさを抱え、不幸にして罪を犯した人や、再び犯罪や非行を重ねてしまう人たちがいます。犯罪や非行からの立ち直りには、まず市民一人ひとりがその人たちを見守り、理解し、支える地域社会の温かい心が必要です。そのために、国、地方公共団体、民間は一体となって、立ち直り

を決意した人たちの雇用の増加、居場所づくり、社会の中での見守りなど、社会復帰を支える環境づくりを推進していくかなければなりません。

本市では、強調月間であります7月に、広報車による広報活動をはじめ、内閣総理大臣メッセージ伝達や標語の募集など、さまざまな催しを行ってまいります。また、再犯防止専用のポータルサイトにおいて、取り組みの広報も続けてまいります。

住民組織、学校、企業、行政機関など関係団体の皆様との協働によって、この運動が大きく実を結び、市民の皆様に「社会を明るくする運動」の趣旨が理解されること、ひいては、犯罪や非行のない、明るく住みよい社会が1日も早く実現されることを心から願っております。

第73回“社会を明るくする運動”
強調月間

7/3 月 内閣総理大臣メッセージ伝達
[金沢市役所]

7/9 日 更生保護の日広報車出発式
[金沢市役所前広場]

7/11 火 公開ケース研究会
[県青少年総合研修センター]

分区別街頭広報活動

7/28 金～ 有名作家チャリティ作品展
31 月 [金沢エムザ]

標語コンクール受賞作品

金沢市長賞

君の手に いじめをとめる カギがある
小坂小学校 6年 飯田 あや

金沢保護観察所長賞

いじめにね 飛びこんだ君 ヒーローだ
新神田小学校 6年 大滝 杏

金沢中警察署長賞

ありがとう 心を満たす 愛言葉
犀桜小学校 6年 川島 遼

金沢東警察署長賞

思いやる 優しい笑顔が 咲く世界
夕日寺小学校 6年 横山 莉沙子

金沢西警察署長賞

助け合い みんなでつなげる 笑顔の輪
西小学校 6年 宮西 優依



生きづらさ 立ち直りを支援する方法

SNSをフ

立ち直 担い手

立ち直りを
一番近くで見ゆ

▼保護司

保護司は、知

した人の立ち直

支えるボラン

地域の事情など

し、保護観察官

保護観察を受け

面接を通じた助

けい、受刑者等

する環境への働

も行っています

4万7000人

#立ち直り
応援基金

#社明73

#生きづらさを生きていく

立
ち
直
な
發
信
一
や
イ
法
務
ツ
ク
レ
て
お
り
面
で
公
立
ち
直
な
發
信
一
や
イ
法
務

に寄り添い
は様々です



理解を深め
見守る

寄付で
応援する

イベントに参加する

自らの過去と向き合い、
罪を償つて立ち直ろうとしている人たちへの理解を、
よろしくお願ひします。

立ち直り応援基金は、

一口1000円からインタ

ネットで誰でも気軽に寄付することができます。寄付金は、全国の

立ち直れる。その思いをつなぐ。

立ち直り応援基金



一人ではどうにもならない“生きづらさ”があります。

犯罪や非行の背景にも、“生きづらさ”があることは少なくありません。

自らの過去と向き合い、生きづらさを抱えながらも、生きていく人たち。その姿を受け入れ、生きづらさを包摶するコミュニティが必要です。

立ち直ろうとする人のそばにいて、寄り添うこと。

立ち直りを支援する人たちの活動を、応援すること。

立ち直りを応援するメッセージをフォロー・拡散すること。

そして、立ち直ろうとする人の“生きづらさ”に思いを寄せること。

一人ひとりにできることが重なりあえば、

大きなコミュニティがつくられていきます。

立ち直ろうとする人が向かうその先に、

もっともっと大きな、生きづらさを包みこむコミュニティ”を。

“社会を明るくする運動”が目指す、

立ち直り支援の輪に、ぜひ、参加してください。



全国では、7月の強調月

間を中心に、“社会を明るくする運動”的な様々なイベントや広報活動、シンポジウムが行われています。お

一人になるのが嫌だった。
孤立するのが怖かった。
誰かといないと、不安に押しつぶされそうで。

仲間たちに誘われた時、断れなかった。
自分にとっては唯一で、大切なものだったから、
歪な繋がりにすがりついた。

この街に帰ってきて一年。
色んな人に囲まれて、いま、自分は働いている。

元気がないと気づいてくれる食堂のおばちゃん。
失敗を笑い飛ばしてくれる先輩。
仕事の楽しさも厳しさも教えてくれる社長。
自分が罪を犯しても、見捨てなかつた幼馴染。

たくさんの顔が思い浮かぶ。
それにすごく、嬉しくなった。

一人でなんでもできるようになることだけが
自立じゃない。
困ったら、誰かを頼ったっていい。

きちんと一人、でも孤独じゃない。

#生きづらさを
生きていく。



社会を明るくする運動
シンボルマーク

社会を明るくする運動のはじまり

戦後間もない昭和24年頃、貧困からくる子供達の非行が、大きな社会問題となっていました。そのとき、東京・銀座商店街の延べ2,000人もの人々が立ち上がり、「不幸な子供達を救ひませう」の立看板を掲げ、真夏の炎天下、犯罪予防と少年保護を訴える「銀座フェア」を開催しました。この市民の活動がきっかけとなって、昭和26年から、法務省主唱の「社会を明るくする運動」が始まりました。

第73回 社会を明るくする運動 金沢市推進委員会事務局

金沢保護区保護司会 金沢市高岡町7-25松ヶ枝福祉館 4階 TEL 076-223-3062 FAX 076-223-3063